

2018年度 平田中学

図書館便り No. 12

2018年11月30日発行

2学期の昼休みの開館は12月12日(水)までになります！

現在本を借りている人は12日(水)までに返却して下さい。

〇●〇冬休み用の図書貸し出しについて〇●〇

12月3日(月)～12日(水) 昼休みの開館時間

12月13日(木)14日(金) ST後12:30～13:30

1人5冊まで 返却は3学期最初の開館日です。

～この冬おすすめの本 冬休みに読んでみませんか？～

クリスマスやお正月など冬休みはイベントが続きますね。楽しいけど何だか気ぜわしい時期でもあります。そんな時、気分転換に読書してみませんか？今回は、図書館ボランティアの皆さんと学習サポーターの先生方からのおすすめの本を紹介します。

「透視絵図鑑なかみのしくみ(楽器)」 こどもくらぶ編集 六耀社



小学校の頃鍵盤ハーモニカを演奏しましたが、中身は一体どうなっているのでしょうか。この本では、普段見る機会のない楽器の中身を鮮やかな写真で紹介しています。グランドピアノの屋根の中を見たことがある人もいますが、アップライトピアノの中身はご存知ですか？ピアノの上から下まで大変な工夫があり面白いです。サクソフォンの解説のページは圧巻です。約600個も部品があり、細かく分解して説明されています。トロンボーンほど大きくないのに、ホルンやユーフォニウム並みの重さがあるもの納得です。図書室には「なかみのしくみ」シリーズが揃っているので、手に取って見て下さい。



「縄文人に相談だ」

望月昭秀

国書刊行会

これは現代人の悩みに縄文人（のふりをした現代人）が縄文的に答える本です。相談者は10代から40代の様々な男女で、その悩みはさまざまです。一方、縄文人がどんな風に考え、生きていたのかは現代の私たちには分かりません。けれどこの本を読むと、縄文人にも悩みがあったのかな？自分ってちょっと縄文人ぽい？など、縄文を身近に感じられるかもしれません。とても面白く読みやすい本で、イラストも独特でかわいいです。図書室にありますので是非読んでみて下さい。

「にっぽんのおにぎり」

白央篤司

理論社



皆さんの家で定番のおにぎりはなんですか？我が家の定番のおにぎりは「塩」です。47都道府県の定番おにぎりをまとめたのがこの本です。ちなみにこの本によると大阪の定番は「こんぶ」。それぞれの土地のおにぎりにはその土地特有の食材が使われており、とても興味深いです。

たかがおにぎりですが侮るなかれ、その地域の気候や歴史にも影響を受けているように思えます。といっても簡単な絵本ですので、家族みんなで「日本一周おにぎり旅行」を楽しんでみてください。

「おにぎり」のほかにも「おかず」「おやつ」も合わせて図書室に置いてあります。



「旅猫リポート」

有川浩

講談社

野良猫だったナナは交通事故にあってしまい、猫好きで人のいい青年・悟に救われます。それから5年間、ナナは家猫として悟と仲良く暮らしてきましたが、ある事情から彼はナナを手放す決意を固めます。そして新たな飼い主を見つけるため、彼らは悟の全国各地にいる親友や初恋の相手に会いに行く旅に出ます。

ナナの新しい飼い主は見つかるのか？物語は猫のナナ目線で語られ、進んでいくのでとても新鮮です。図書室にも置いてあるので、猫好きな人もそうでない人も、ぜひ手に取って見て下さい。

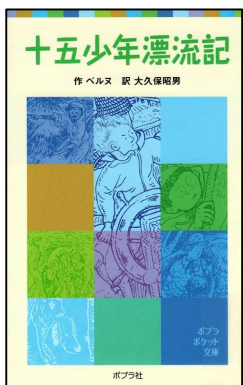
「ロバのサイン会」

吉野万里子

光文社



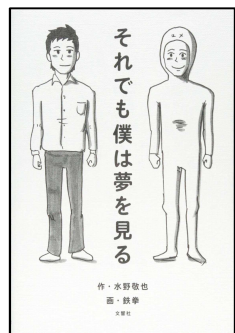
この本の主役は動物たちです。タレント事務所で役者をする猫、飼い主のためにお金を稼ぐセキセイインコ、奈良公園にむかって旅をする野生の鹿など、たくさんの生き物が出てきます。どの動物たちも健気で一生懸命生きています。彼らが、こんな風に思っているかもしれないと考えると、きっと身近にいる生き物がより愛しく思えるはずです。図書室にもあるので、ぜひ読んでみてください。



「十五少年漂流記」 ジュール・ヴェルヌ ポプラ社

この物語は、今から百年以上前にフランスで書かれた冒険物語です。十五人の少年たちが二年間無人島生活をする中で、それぞれにドラマや事件が起こります。生きていくために様々な工夫を重ね、持ち前の知恵と好奇心とを使って成長していく子どもたちの姿が描かれています。十五人の社会ができ、国籍や年齢、考え方の違いから偏見や対立が起こりますが、様々な人の協力で乗り越え解決していきます。

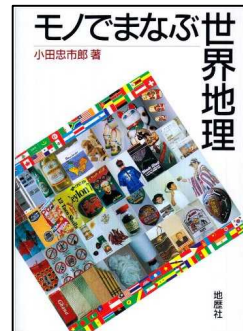
冒険のわくわくした雰囲気、生きかたや社会の作られ方が学べる本です。図書室にも置いてあるので、世界で読み継がれている本、ちょっと覗いてみませんか？



「それでも僕は夢を見る」 水野敬也 文響社

この本は、人生が思うようにいかず夢を諦めた「僕」が、年老いて死ぬ間際に、自分の夢（思い）と再び向き合うお話です。

人は最期に何を思うのか。鉄拳さんのイラストとともにあつという間に読めてしまいますが、生きることそのものがすばらしいと感じさせてくれる一冊です。読む年齢や状況によって違う感動が味わえるので、何歳でも何回でも楽しめる本だと思います。同シリーズの他の本（「もしも悩みがなかったら」「あなたの物語」）もおすすめです。図書室にも置いてあるので、皆さんも手に取って見て下さい。



「モノでまなぶ世界地理」 小田忠市郎 地歴社

この本は、題名通りモノについての本で写真がたくさん掲載されています。社会の授業でおなじみの日付変更線をはじめ、南米の累積債務の問題から、グリーンランドの生肉まで、内容はとても幅広いです。可愛いサンタクロースがサーフィンするイラストの切手もあり、見るだけでも飽きません。オーストラリアのクリスマスは冬ではなく夏場になるのですね。

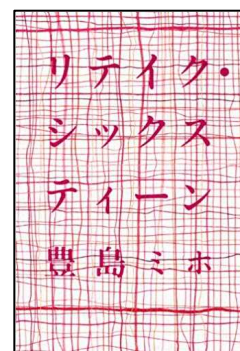
会話文が多いので読みやすく、一章は数ページなので朝読書にもおすすめです。図書室にも置いてありますので、ぜひ読んでみて下さい。



「時をかけるゆとり」 朝井リョウ 文春文庫

「桐島、部活やめるってよ」「チア男子！！」など、映像化された作品も多い、人気作家の著者による、最高に笑えるエッセイ集です。学生生活や出会った人との面白エピソードが盛りだくさんで、吹き出してしまうこと間違いなし！落ち込んでいる時や悲しい時に、何も考えずに読んでみてほしいです。おかしくって元気がもらえます。何気ない日常生活も、よくよく観察してみるとドラマに溢れているのだなと気付かされます。

ちなみに、この本が文庫化される前のタイトルは「学生時代にやらなくてもいい20のこと」。気になりますよね。この本にちょっとでも興味がわいたらぜひ図書室へ！！



「リテイク・シックスティーン」 豊島ミホ 幻冬舎

「あたし、未来から来たの」沙織は高校入学早々、クラスメイトの孝子から打ち明けられます。実際は27歳で無職だという孝子は、自分の未来を変えるためにイケてなかった高校時代をやり直しに来たといいます。高校生活をやり直せば未来が変わると信じ、かつて出来なかった事のかたづけしから経験しようとする孝子。沙織はそんな彼女と過ごす中で、実は人生はリテイク（やり直し）できない一度きりのものであって、その最中にはなかなか気付かないけれど、その時その時がとても大切であることに少しずつ気付いていきます。

皆さんの年代は楽しい事も沢山ありますが、つらくしんどい事も沢山ありますね。しかし中学時代は一度きり。どちらの事にも思いっきりぶつかって行ってほしいです。



「信じてみたい幸せを招く世界のしるし」 米澤敬 創元社

みなさんは四つ葉のクローバーを見つけたことはありますか？ 見つける確率は10000本のうちの1本だそうです。

この本では、日常生活の中でたまたま出会ったり、うっかりやってしまったりすることを「しるし」と言います。例えば、日本では茶柱が立つ、朝にクモを見ると良いと言われているようなことで、世界中のこのような幸せの「しるし」が50紹介されています。

最近外出先でイヤリングを片方落としてしまいました。探しても見つからず、あきらめて帰宅しましたが、ちょうどこの本に「耳飾りが落ちる」という幸せの「しるし」が載っていました。イヤリングが落ちるのは大切な人に思われている証拠だそうで、沈んでいた気持ちがすっかり晴れやかになりました。あなたに偶然起こったことには何か意味があるかもしれません。この本を手にとって一度確かめてはどうですか？



「風が強く吹いている」 三浦しをん 講談社

皆さんは、お正月はどのように過ごしますか。初日の出を見たり、初詣に出かけたりしますか？それとも寝正月ですか？我が家の恒例行事は、箱根駅伝を朝早くからテレビ観戦することです。

この本は、ある大学の弱小陸上部、それも初心者ばかりのチームが、箱根駅伝を目指すという話です。無謀だと思えるチャレンジを承知で、彼らは練習を重ねます。根を上げたり、気持ちがぐらついたり…苦しい場面も続きます。しかしメンバー10人全員が、それぞれの思いを胸に秘めて、前へ前へと進んでいきます。

果たして彼らの努力は実を結ぶのでしょうか？冬を迎えるこの時期に、ぜひとも読んでほしい作品です。作者の三浦しをんさんの作品には、映画化された「舟を編む」や「神去なあなあ日常」などがあり、図書室にも置いてあります。この本とあわせて読んでみて下さい。

